
第3回（2016年）アジアコスモポリタン賞 受賞者・授賞理由



ASIA COSMOPOLITAN AWARDS 事務局
東アジア・アセアン経済研究センター
(Economic Research Institute for ASEAN and East Asia)
2016年11月25日

第3回アジアコスモポリタン賞大賞 テイン・セイン(Thein Sein)



プロフィール

1945年旧イギリス領ビルマ(現ミャンマー)パテイン郡生まれ。

前ミャンマー連邦共和国大統領。

1963年に陸軍入隊。1967年 国軍士官学校卒業。軍では要職を歴任。

1997年に国家平和開発評議会(SPDC)委員に就任。2007年に暫定首相を経て首相に就任し、大将に昇格。2010年4月に軍を退役し、首相職のまま、連邦連帯開発党(USDP)を結成し、党首に就任。

2010年11月 下院(国民代表院)議員選挙にて当選後2011年3月に23年ぶりの大統領に就任し、経済社会改革を推進し、軍政から民政への移行期のミャンマーを改革開放路線へと転換させた。総選挙を経て2016年3月に大統領を退任。現在USDP中央指導委員会委員。

受賞に値する功績

テイン・セイン氏は、大統領として国を経済改革をはじめとする諸改革を通じてより開放的かつ繁栄する国家に変貌されることを目指した。彼のリーダーシップのもとでミャンマーは民主化に向けて多くの改革を含む多くの重要なステップを踏むことができた。2014年にはASEANの議長国の大統領として、各種サミットや閣僚会合等を成功裡に纏め上げ、2015年以降のASEAN共同体の絵姿を策定することをASEANとして世界に約した功績は大いに評価に値するものである。こうした内外の課題に対する指導力を、選考委員会は高く評価し、第3回アジアコスモポリタン賞の大賞を授与することを名誉に思う。

テインセイン氏がミャンマーの改革に乗り出すにあたって、政府は漸進的に民主的かつ市場志向の経済改革をめざした。法や民意に従って多くの課題解決に着手し、確実に成果がでる努力を継続した。テインセイン政権は、国民の安全な生活を確保し、雇用機会を創出し、生活水準と一般市民の社会的・経済的地位を向上させるため、社会密着型の広範な経済改革も導入した。

また彼の政権下で小学校と中等教育の無償化を導入した。

第3回アジアコスモポリタン賞大賞 テイン・セイン(Thein Sein)

各課題を次から次へとこなす厳密な直線的アプローチでなく、彼の政府は、多焦点的アプローチを採用した。そのような取り組みの中で特筆すべきは経済社会改革(FESR)の枠組みにおいて選定された優先項目の中で、とりわけ、金融政策と為替政策の影響である。マクロ経済の安定と外国投資の制限緩和を確実にする金融政策と為替レートの改革は重要な改革の領域であった。

2011年に従来の公定レート(公式レートの100倍以上の評価)に変わり、2012/2013予算の中で市場為替レートを使用することを決定し、2012/2013予算の内容は、民間の開発推進による成長を目指す方向に大きく転換した。またFESRを通じ外国投資に関する法整備を進めて外国人投資家のための投資環境の改善に努めた。

こうした改革のおかげで、欧米の経済制裁が緩和、または解除され、援助国がミャンマーの政治的、経済的な移行をより強力にサポートすることが可能になった。

国際分野における前大統領のもっとも大きな成果は2014年に初めてASEAN議長国となり、この地域全体のリーダーシップが求められたときである。長らく閉鎖的な環境に鑑みれば、各種サミットや閣僚会合等を滞りなくやり遂げただけでも大変な功績である。この年のサミットで採択されたネピドー宣言は、その翌年採択されるASEAN共同体ビジョン2025策定に向けて重要な骨格を示した。

議長国としての成功はミャンマーの人々に自信を持てる結果を生み出し、ミャンマーが開放的で地域や世界規模の課題に取り組んでいけることを示した。

テインセイン氏の内外への関心とリーダーシップが、第3回アジアコスモポリタン賞の大賞を授与するのにもっとも相応しい人物たらしめるものである。

第3回アジアコスモポリタン賞 経済・社会科学賞 藤田 昌久 (Masahisa Fujita)



プロフィール

1966年京都大学工学部土木工学科卒業。甲南大学特別客員教授、京都大学経済研究所特任教授。

京都大学工学部助教授、米国ペンシルバニア大学助教授、準教授、教授、京都大学経済研究所教授を経て現職。また国連大学高等研究所(東京)客員教授、文部省科学官、応用地域学会会長、日本経済学会会長などを歴任、2003年から2007年まで日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所所長、および2007年から2016年3月まで独立行政法人 経済産業研究所(RIETI)所長も兼務。日本経済学会会長(2009-2010年)。主な研究分野は都市・地域・国際・空間経済学。1972年米国ペンシルバニア大学博士号(地域科学)取得。日本学士院会員。

受賞に値する功績

今回のアジアコスモポリタン賞、経済・社会科学賞は藤田教授に授与される。藤田教授は都市・地域経済学で優れた研究業績をあげ、特に新経済地理学・空間経済学の構築に不可欠な貢献を成してきた。ポール・クルーグマン、アンソニー・ベナブルズとの共著による『空間経済学—都市・地域・国際貿易の新しい分析』は、新経済地理学・空間経済学における必読書となっており、Google Scholarによれば8,000以上の学術研究により引用されている。

新経済地理学・空間経済学は、経済活動の集積と分散を分析する学問であり、輸送費の変化が集積力や分散力を生み出し、産業立地や人口移動、国際分業等に影響を及ぼすことを経済理論により説明する。こうした藤田教授の研究は、東アジアで地域統合を推進するための理論的基盤となっている。

藤田教授は、理論研究に多大な貢献をされてきたが、実証研究も同様に重視されている。藤田教授の研究成果と研究に対する熱意は、政策研究やエビデンス(証拠)に基づく政策立案を志す東アジアの研究者・実務家を触発している。ASEAN連結性マスタープランやASEAN経済共同体ブループリント2025といったASEANの様々なイニシアティブや東アジア経済統合の推進に、藤田教授の卓越した研究業績と指導力が多大な影響を及ぼしている。

第3回アジアコスモポリタン賞 文化賞 ヘルマン・ファン・ロンパイ(Herman Van Rompuy)



プロフィール

1947年10月31日生まれ。

2009年12月1日、リスボン条約で新設された常任の欧州理事会議長の初代議長に就任し、2012年に再任、2014年11月30日まで2期5年務めた。

2007年から2008年までは下院議員議長に就き、2008年12月30日から2009年11月25日まで同国首相を務めた。それ以前は副首相兼予算相(1993-1999)や内務大臣(2004)、金融・小企業大臣(1988)などの要職を経験した。

ベルギー国立銀行の経済学者だった氏は1973年にフラマン系キリスト教民主党の前身であるキリスト教人民党青年団の代表を皮切りに政治の世界に入り、1988年から1993年までキリスト教民主党党首を務めた。1998年から1995年まで上院議員、1995年から2009年まで下院議員。

ルーヴェン大学哲学科卒。同経済学修士。

現在 ルーヴェンおよびルーヴァン・ラ・ヌーヴの大学やブラッセルの欧州大学院大学、パリ政治学院等で教鞭をとっている。欧州政策センター理事長。

2011年11月3日 旭日大綬章 受章

2015年7月21日にフィリップ国王より伯爵の爵位を授与された。

母国語のオランダ語のほか、英語、フランス語、ドイツ語に堪能。

第3回アジアコスモポリタン賞 文化賞 ヘルマン・ファン・ロンパイ(Herman Van Rompuy)

受賞に値する功績

自選の句集を出版するほどの俳句愛好家であり、世界最小の定型詩の魅力にひかれ2004年に句作をはじめ、欧州理事会議長としての多忙な日常七課でも俳句の制作に時間をとっていた。氏はすでに2句集をオランダ語で上木している:Haiku, Poeziecentrum Vzw, 2010; and Haiku 2, Poeziecentrum Vzw, 2013. Haiku 2はドイツ語、フランス語、英語、日本語訳もされている。

技術の発展に伴って複雑化し、懐疑心が横行する現代世界にあつて、俳句の「簡素さ」は際立っており、競争、敵愾心、嫉妬心が渦巻くこの地球上で、俳句が奏でる「調和」の調べは貴重な存在であると主張し、「平和」と「和解」と「一致団結」の世界を信念にEU大統領として政治活動を行ってきた。その信念に王冠を授けてくれたのが「俳句」であり、自ら俳句の門をたたき、自分の生活の一部として、俳句が自分の生活を変えたという。

俳句は日本からヨーロッパにつながり、ヨーロッパの思想体系に組み込まれた実例であるとも主張する。

自選の句集を出版するほどの俳句愛好家であり、世界最小の定型詩の魅力にひかれ2004年に句作をはじめ、欧州理事会議長としての多忙な日常七課でも俳句の制作に時間をとっていた。氏はすでに2句集をオランダ語で上木している:Haiku, Poeziecentrum Vzw, 2010; and Haiku 2, Poeziecentrum Vzw, 2013. Haiku 2はドイツ語、フランス語、英語、日本語訳もされている。

技術の発展に伴って複雑化し、懐疑心が横行する現代世界にあつて、俳句の「簡素さ」は際立っており、競争、敵愾心、嫉妬心が渦巻くこの地球上で、俳句が奏でる「調和」の調べは貴重な存在であると主張し、「平和」と「和解」と「一致団結」の世界を信念にEU大統領として政治活動を行ってきた。その信念に王冠を授けてくれたのが「俳句」であり、自ら俳句の門をたたき、自分の生活の一部として、俳句が自分の生活を変えたという。

俳句は日本からヨーロッパにつながり、ヨーロッパの思想体系に組み込まれた実例であるとも主張する。

誰もが軽やかに口ずさめる短詩で平和の尊さを表現する点が、人種や主義の違いを超えて価値観の共有を目指すEUの姿と重なると強調する。

ファンロンパイ氏はドストエフスキーが、「美のみが世界を救う」と言ったことを引き、俳句も美。人々が美の感性を高めれば、争いを抑えられると考えたいと述べている。

かつて第2芸術と批判された俳句という日本で生まれた詩形がいわばグローバルスタンダードとして世界で受け入れられようとしており、そのことを身をもって世界に訴えかけるファンロンパイ氏はまさにアジアコスモポリタンと言うにふさわしい。BREXITが契機となり、EUにおけるひとの移動の問題が問われているが、ファンロンパイ氏が示しているように、単なる経済利益の追求を超えた、人と人との心の交流のありかたが「ひとの移動・交流」が受け入れられる根本条件である。俳句のような短詩型を通じて異なる文化、自然を受入れ、その多様性を尊敬しつつ、共通の詩的認識手法により「調和」をもたらすことが今求められている。

その意味において、氏がアジアコスモポリタン文化賞を受賞するにふさわしい。

「俳句の背後にある哲学は、世界共通のもの」だとしてUNESCO無形文化遺産への登録に賛意を示し、尽力している。

第3回アジアコスモポリタン賞 文化賞 ヘルマン・ファン・ロンパイ(Herman Van Rompuy)

代表句は以下のとおりであり、高い評価を受けている。

(平和の俳句)

Who looks at the sun
At the sea,at the stars
Loves peace

陽を海を星を見る者和を愛する

(東日本大震災に際して)

The three disasters
Storms turn into a soft wind
A new humane wind
三災後仁愛の風流れ込む

(その他)

Two wild ducks
Alighting on my pond
A brace forever
二羽の鴨わが庭に来て離れざる

Wandering clouds
Full moon and black heaven
Chiaroscuro

雲は流れる
暗い空に満月
調和のとれた明暗

以上